

- 問1 鎌倉時代に栄西によって伝えられ、曹洞宗とともに武士から厚い支持を受けた禅宗の宗派を何という？
- 問2 鎌倉幕府が、朝廷の動きを監視するために京都に設置した機関を何という？
- 問3 時宗の僧である一遍が、念仏を唱えながら踊ることで信仰を広めた形式を何という？
- 問4 承久の乱で朝廷に勝利した後、鎌倉幕府が京都の朝廷を監視するために設置した役所を何という？
- 問5 鎌倉時代の将軍と御家人の間の「御恩」と「奉公」によって成り立つ結びつきを何という？
- 問6 13世紀後半、フビライ・ハンが日本へ向けて2度にわたり大規模な遠征軍を九州北部へ送った一連の戦いを何という？
- 問7 マルコ・ポーロが記した『東方見聞録』の別名を何という？
- 問8 鎌倉時代後半に、荘園領主や幕府の命令を無視して年貢を奪い、実力行使によって抵抗した集団を何という？
- 問9 『方丈記』や『枕草子』、『徒然草』を総称して何という？
- 問10 二度の元寇の際、鎌倉幕府の執権として指揮をとった人物は誰？
- 問11 モンゴル帝国が中央アジアを征服し、世界規模で勢力を広げたのは何世紀？
- 問12 元寇の際、防衛のために石築地が築かれた現在の福岡県にある湾を何という？
- 問13 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？
- 問14 日蓮が人々の救いとなるとして唱えることを推奨した「南無妙法蓮華経」という言葉を何という？
- 問15 鎌倉時代の武士が好んだ、飾らずに自分を律する生活態度のことを何という？
- 問16 鎌倉時代、税として年貢が徴収されていた土地の種類を何という？
- 問17 鎌倉時代後期に時宗を開き、全国を回りながら布教活動を行った僧は誰？
- 問18 鎌倉幕府において、将軍が御家人の所領を保護・保証することを何という？
- 問19 座禅を通して修行し、自己の心を見つめることを重視する、鎌倉幕府から保護を受け武士に広まった仏教の一派を何という？
- 問20 平氏が瀬戸内海での影響力を強め、経済的な力をつけるために積極的に行った貿易を何という？
- 問21 後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして起こし、幕府がこれを鎮圧した戦いを何という？
- 問22 元軍の再襲来に備えて鎌倉幕府が博多湾の沿岸に築いた、石造りの防壁を何という？

## 答え合わせ・解説

|     |             |                                                                                                                                                   |
|-----|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え<br>臨済宗   | 臨済宗は、宋西が中国（宋）から日本に伝えた禅宗です。座禅を通じて自分自身を見つめ直し、悟りを開くことを目的とします。座禅の際に問いかけを用いる「公案（こうあん）」という独特の修行方法があるのが特徴です。                                             |
| 問2  | 答え<br>六波羅探題 | 六波羅探題は、京都の六波羅に設置された鎌倉幕府の重要機関です。朝廷の監視だけでなく、京都周辺の治安維持や、西国の御家人の統制、さらには京都で起こった裁判の処理などを幅広く担当しました。北条氏の一門がこの長官に就任することが多く、幕府の西国支配における最前線の拠点としての役割を果たしました。 |
| 問3  | 答え<br>踊り念仏  | 「踊り念仏」は、楽器の音に合わせて歌い踊りながら念仏を唱えるという、非常に活動的な布教の形です。視覚的・聴覚的に人々に訴えかけるこの方法は、当時の民衆にとって非常に魅力的でした。                                                         |
| 問4  | 答え<br>六波羅探題 | 鎌倉幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは、単に京都の治安維持を行うだけでなく、朝廷の監視、さらには西日本の御家人の裁判や統率を担う重要な機関でした。これにより幕府の支配力は西日本にまで大きく広がることとなりました。                                 |
| 問5  | 答え<br>主従関係  | 主従関係とは、将軍が土地を保障する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」が対になったものです。この契約的な関係により、将軍は御家人を束ね、軍事力を維持しました。土地を媒介として「御恩と奉公」を繰り返すことで、幕府は全国の武士を支配下に置くことができました。                 |
| 問6  | 答え<br>文永の役  | 1274年の文永の役と、1281年の弘安の役の2度、元軍が九州北部に襲来しました。元軍は火器などを用いた集団戦法で攻めてきましたが、御家人たちの奮戦や、暴風雨の影響もあり、幕府はこれを退けることに成功しました。                                         |
| 問7  | 答え<br>世界の記述 | 『世界の記述』（あるいは『驚異の書』とも呼ばれる）は、モンゴル帝国（元）のフビライ＝ハンのもとでの体験、中国の高度な文明、さらには日本などの周辺国の様子が描かれています。これにより、ヨーロッパの人々に東洋の地理的な広がりを伝え、当時の人々の世界観を根本から書き換えました。          |
| 問8  | 答え<br>悪党    | 悪党は、荘園領主や幕府の統制を無視して、力づくで年貢の徴収を妨害したり、所領をめぐって紛争を起こしたりした武装集団です。武士だけでなく、土豪や農民が含まれることもありました。                                                           |
| 問9  | 答え<br>随筆    | 随筆は、決まった形式にとらわれず、筆者が感じたことや考えたことを自由な文章でまとめたものです。特に『方丈記』は鎌倉時代の不安定な世相を、『枕草子』は平安時代の貴族の美意識を、『徒然草』は鎌倉時代末期の洗練された価値観をそれぞれ鮮やかに描き出しています。                    |
| 問10 | 答え<br>北条時宗  | 北条時宗は鎌倉幕府の第8代執権です。元からの服属要求に対し、使者を処刑するという強硬な姿勢をとりました。1274年の文永の役、1281年の弘安の役の際には、自ら指揮を執り、防壁の建設や御家人への動員命令を通じて国家の危機を救いました。                             |
| 問11 | 答え<br>13世紀  | 1206年のモンゴル帝国建国から、13世紀を通じてモンゴル軍は東西に遠征を行いました。この時代は日本でいう鎌倉時代の中期にあたり、幕府にとっては東アジアの情勢が大きく変化した激動の時期でした。                                                  |
| 問12 | 答え<br>博多湾   | 博多湾は、元軍の主要な上陸地点となりました。二度目の襲来（弘安の役）に備え、幕府は博多湾岸に「石築地（防壁）」を築かせ、元軍の騎馬隊が上陸するのを防ぐとともに、日本軍が弓矢で戦いやすいような工夫をしました。この防衛線の強固さが、元軍の上陸を阻む大きな要因となりました。            |
| 問13 | 答え<br>貞永式目  | 制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「貞永式目」とも呼ばれます。特に、守護の権限を警察・裁判権に限定する「大犯三箇条」などが規定され、御家人の権利を守る内容が含まれていました。                                             |
| 問14 | 答え<br>題目    | 日蓮は『法華経』の功德を信じ、その題目である「南無妙法蓮華経」と唱えることこそが、最も確実な救済の手段であると説きました。これを「唱題（しょうだい）」と呼びます。                                                                 |
| 問15 | 答え<br>厳格    | 鎌倉時代の武士は、富や権力を誇示するよりも、質素で厳格な生活を送り、主君に対する絶対的な忠誠を誓うことを美徳としました。この精神性は、仏教の禅宗の普及とも結びつき、武士社会における倫理規範として定着しました。                                          |
| 問16 | 答え<br>荘園    | 荘園は、貴族や有力な寺社などが所有する土地で、そこから上がる収益が当時の支配階級の重要な経済源でした。鎌倉幕府が成立すると、幕府は各地の荘園にも「地頭」を配置し、年貢徴収や管理の権限を握りました。これにより、それまでの公領（朝廷直轄地）と並び、武士の支配対象となりました。          |
| 問17 | 答え<br>一遍    | 一遍は「時宗」を開き、踊り念仏を行いながら全国各地を巡りました。彼は特定の寺院に留まらず、諸国を旅しながら念仏の札を配ることで、階層を問わず多くの民衆に浄土への信仰を説きました。                                                         |
| 問18 | 答え<br>所領安堵  | 所領安堵とは、御家人が持つ土地の支配権を将軍が保証する仕組みです。御家人は、将軍からこの御恩を受ける代わりに、戦場での戦いや京都の警備といった軍役を果たす義務がありました。この「御恩と奉公」の精神が、幕府の強力な支配体制を支える土台となりました。                       |
| 問19 | 答え<br>禅宗    | 禅宗は、厳しい修行や座禅を通して、自らの内面を見つめることを教える仏教です。特別な書物よりも、師から弟子への心身を通じた教えを重んじました。その簡素で厳格な生活態度は、武士たちの気風と非常に相性が良く、幕府の庇護もあって急速に普及しました。                          |
| 問20 | 答え<br>日宋貿易  | 平氏は、当時の中国の王朝である「宋」との貿易（日宋貿易）に力を入れました。博多や大輪田泊（現在の神戸港）を整備して外国船を呼び込み、宋から陶磁器や銅銭などを輸入し、日本からは金や硫黄などを輸出しました。この利益が平氏政権の強大な経済力の源泉となりました。                   |
| 問21 | 答え<br>承久の乱  | 1221年、後鳥羽上皇は幕府を倒すよう命じましたが、北条政子の演説で結束した幕府軍が京都へ進軍し、朝廷軍を撃破しました。この勝利により、幕府の権力は決定的なものとなりました。                                                           |
| 問22 | 答え<br>防壁    | 幕府は北九州の御家人たちに命じ、博多湾の海岸沿いに石造りの長い防壁を築きました。これが「防壁」です。元軍の上陸を困難にさせる防御施設であり、当時の武士の軍事動員体制を示す重要な遺構です。                                                     |

- 問1 運慶が快慶らと協力して制作した、奈良の東大寺南大門に安置されている有名な彫刻作品を何という？
- 問2 鎌倉時代に琵琶を弾きながら、平氏の栄枯盛衰を語り歩いた軍記物語を何という？
- 問3 承久の乱において、倒幕を狙って挙兵した上皇は誰？
- 問4 元軍の襲来に備えて、鎌倉幕府が九州北部の海岸に築いた石造りの防衛線を何という？
- 問5 鎌倉時代の武士の間で行われていた、子どもたちに領地を分け与える相続方法を何という？
- 問6 11世紀末、ローマ教皇の呼びかけで、イスラム勢力から聖地エルサレムを奪還するために組織された遠征軍を何という？
- 問7 十字軍の遠征が活発に行われた時期は、日本の歴史ではどの時代にあたる？
- 問8 承久の乱で朝廷に勝利した後、鎌倉幕府が京都の朝廷を監視するために設置した役所を何という？
- 問9 1185年に全国の荘園や公領へ地頭を置く権限を朝廷に認めさせた、鎌倉幕府の初代将軍は誰？
- 問10 鎌倉時代に書かれた文学作品『方丈記』の著者は誰？
- 問11 13世紀後半、モンゴル帝国による二度の襲来を受けた出来事を何という？
- 問12 モンゴル帝国が中央アジアを征服し、世界規模で勢力を広げたのは何世紀？
- 問13 鎌倉時代に宋から帰国し、臨済宗を日本に伝えた僧は誰？
- 問14 後鳥羽上皇が鎌倉幕府の打倒をめざして挙兵し、幕府軍に鎮圧された「承久の乱」が起こったのは何年？
- 問15 鎌倉時代、税として年貢が徴収されていた土地の種類を何という？
- 問16 鎌倉幕府において、将軍が御家人の何を守る（安堵する）ことを根拠とした主従関係を「御恩と奉公」という？
- 問17 琵琶法師によって語り継がれた、平氏一族の栄枯盛衰を描いた軍記物語を何という？
- 問18 法然が庶民に信仰を広めた、死後の安らかな世界を何という？
- 問19 一遍が踊り念仏を通して信仰を広めた、浄土信仰の中心となる仏を何という？
- 問20 モンゴル帝国が中央アジアから支配下に置いた、西側の地域はどこ？
- 問21 源頼朝が御家人たちに与えた、土地の領有権を認めたり保証したりする権利を何という？
- 問22 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？

## 答え合わせ・解説

|     |               |                                                                                                                                                                         |
|-----|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え<br>金剛力士像   | 東大寺南大門に配置された金剛力士像は、運慶と快慶らの工房が分担して短期間で完成させました。筋肉の盛り上がりや血管の浮き出た表現、衣のひだの動きなど、極めて写実的で生命感あふれる特徴を持っています。                                                                      |
| 問2  | 答え<br>平家物語    | 平家物語は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華とその滅亡を描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声…」という有名な書き出して始まり、武士の戦いぶりや人生のはかなさが強調されています。文字が読めない人も多かった当時、琵琶法師が日本全国を回り、琵琶の伴奏とともに節をつけて語ることで広く普及しました。                     |
| 問3  | 答え<br>後鳥羽上皇   | 後鳥羽上皇は、北条義時追討の院宣を出し、全国の武士に呼びかけて幕府打倒を試みました。しかし、北条政子の演説により結束した幕府軍の前に敗北しました。                                                                                               |
| 問4  | 答え<br>防塁      | 博多湾の沿岸などに高さ約2メートルの石垣を築き、元軍の上陸を阻止するための備えとしました。この石垣を石築地（いしづいじ）とも呼びます。                                                                                                     |
| 問5  | 答え<br>分割相続    | 当時の武士社会では、家督を継ぐ長男だけでなく、他の兄弟にも領地を分ける分割相続が一般的でした。これにより、相続のたびに個々の武士が持つ土地が細分化され、一つの家が持つ経済力が低下していきました。                                                                       |
| 問6  | 答え<br>十字軍     | 1095年、ローマ教皇ウルバヌス2世の呼びかけにより、聖地を奪還するための軍勢が組織されました。遠征は複数回にわたって行われ、盾に十字の印をつけたことから「十字軍」と呼ばれます。                                                                               |
| 問7  | 答え<br>鎌倉時代    | 十字軍が始まった1095年は日本で院政期（平安時代末期）にあたりますが、戦いが本格化した12世紀から13世紀にかけては、ちょうど鎌倉幕府が成立し、発展していく時期にあたります。                                                                                |
| 問8  | 答え<br>六波羅探題   | 鎌倉幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは、単に京都の治安維持を行うだけでなく、朝廷の監視、さらには西日本の御家人の裁判や統率を担う重要な機関でした。これにより幕府の支配力は西日本にまで大きく広がることとなりました。                                                       |
| 問9  | 答え<br>源頼朝     | 源頼朝は、朝廷との交渉を通じて全国に守護と地頭を置くことを認めさせました。守護は軍事・警察を、地頭は土地管理と徴税を担い、武士が社会の主役となる画期的な体制を確立しました。これが後の鎌倉幕府の実質的な支配システムとなります。                                                        |
| 問10 | 答え<br>鴨長明     | 鴨長明は、貴族社会から離れて隠遁生活を送った人物です。京都郊外の日野山に小さな草庵を結び、そこで体験した世の中の厳しい出来事や仏教的な無常観を書き残しました。これが文学作品として高い評価を受けている『方丈記』です。                                                             |
| 問11 | 答え<br>元寇      | 1274年の「文永の役」と、1281年の「弘安の役」の二度にわたり、元軍が日本に襲来しました。幕府は御家人を動員して防戦し、九州各地で激しい戦いが繰り広げられました。特に弘安の役では、日本側が築いた石築地などの防衛と暴風雨も重なり、元軍は退却しました。                                          |
| 問12 | 答え<br>13世紀    | 1206年のモンゴル帝国建国から、13世紀を通じてモンゴル軍は東西に遠征を行いました。この時代は日本という鎌倉時代の中期にあたり、幕府にとっては東アジアの情勢が大きく変化した激動の時期でした。                                                                        |
| 問13 | 答え<br>宋西      | 鎌倉時代は、激動の世の中で武士を中心に新しい仏教が求められていた時代です。宋に渡り修行した宋西は、帰国後に禅宗の一つである臨済宗を伝えました。彼はまた、宋から茶の種を持ち帰ったことでも知られ、日本における喫茶の習慣を広めるきっかけを作った人物としても有名です。その後、禅の教えは武士の気風と合致し、鎌倉を中心に広く浸透していきました。 |
| 問14 | 答え<br>1221年   | 1221年、後鳥羽上皇が中心となって起こしたのが承久の乱です。これに対し、幕府は北条政子の演説で御家人を結束させ、京都へ軍勢を送りました。幕府軍の勝利は、それまで優位であった朝廷が武家に完全に屈服したことを意味しました。                                                          |
| 問15 | 答え<br>荘園      | 荘園は、貴族や有力な寺社などが所有する土地で、そこから上がる収益が当時の支配階級の重要な経済源でした。鎌倉幕府が成立すると、幕府は各地の荘園にも「地頭」を配置し、年貢徴収や管理の権限を握りました。これにより、それまでの公領（朝廷直轄地）と並び、武士の支配対象となりました。                                |
| 問16 | 答え<br>土地      | 将軍は御家人の領地（本領）を「安堵（保証）」し、時には新しい領地（新恩給与）を与える「御恩」を与えました。一方、御家人は戦いの際に軍役に従事したり、幕府の警備をするなどの「奉公」を行いました。                                                                        |
| 問17 | 答え<br>平家物語    | 『平家物語』は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華と、源氏との戦いによる滅亡を描いた作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な一節にあるように、世の中の無常さを説く「無常観」が根底に流れています。                                                                      |
| 問18 | 答え<br>浄土      | 浄土とは、阿弥陀仏が治める、迷いや苦しみから解放された極楽世界のことを指します。法然は、この浄土へ生まれ変わることを願い、ひたすら念仏を唱えることが重要だと説きました。この信仰は、現世の不平等に苦しむ人々にとって、唯一の救いとしての意義を持っていました。                                         |
| 問19 | 答え<br>阿弥陀仏    | 阿弥陀仏は、無限の寿命を持ち、すべての生き物を救う仏と信じられていました。鎌倉時代には、念仏を唱えるだけで救われるという考えが民衆に受け入れられ、一遍のような僧侶たちが熱心に信仰を普及させました。                                                                      |
| 問20 | 答え<br>ヨーロッパ東部 | モンゴル帝国の支配はアジアにとどまらず、西へ大きく拡大しました。中央アジアを経て、東ヨーロッパにまで達しました。これにより、ユーラシア大陸の東西をつなぐ広大な支配圏が確立されました。                                                                             |
| 問21 | 答え<br>御恩      | 「御恩」とは、将軍が御家人に対して本領の安堵（土地の支配権を認めること）や、新しい領地の供与を行うことです。これに対して御家人は「奉公」という軍役や警備の義務を負いました。                                                                                  |
| 問22 | 答え<br>貞永式目    | 制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「貞永式目」とも呼ばれます。特に、守護の権限を警察・裁判権に限定する「大犯三箇条」などが規定され、御家人の権利を守る内容が含まれていました。                                                                   |

- 問1 運慶が快慶らと協力して制作した、奈良の東大寺南大門に安置されている有名な彫刻作品を何という？
- 問2 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？
- 問3 鎌倉時代の力強い武士の気風を反映し、東大寺南大門に安置されている、運慶らによって作られた有名な彫刻を何という？
- 問4 鎌倉時代に書かれた文学作品『方丈記』の著者は誰？
- 問5 鎌倉時代に宋から帰国し、臨済宗を日本に伝えた僧は誰？
- 問6 鎌倉時代の武士の間で行われていた、子どもたちに領地を分け与える相続方法を何という？
- 問7 鎌倉時代に、承久の乱で朝廷側と戦い、勝利を収めた一族を何という？
- 問8 11世紀末、ローマ教皇の呼びかけで、イスラム勢力から聖地エルサレムを奪還するために組織された遠征軍を何という？
- 問9 鴨長明が乱世における世の無常を記した、日本三大随筆の一つとされる作品を何という？
- 問10 1221年に、朝廷の権力を取り戻すために鎌倉幕府を倒そうと挙兵した人物は誰？
- 問11 武士の気風を反映し、写実的で力強い特徴を持つ、鎌倉時代に栄えた文化を何という？
- 問12 モンゴル帝国が建国されたのは、日本ではどの時代にあたる？
- 問13 鎌倉文化に見られる、武士の気風を反映した特徴を表現する言葉として「何々さ」とよく言われるものは？
- 問14 琵琶法師により、当時の人々に語り伝えられた鎌倉時代の軍記物語を何という？
- 問15 1232年に日本最初の武家法を制定した、鎌倉幕府の三代執権は誰？
- 問16 鎌倉幕府の中央に置かれた主要な機関で、政所や侍所と並び、裁判などを担当した組織を何という？
- 問17 鎌倉幕府において、御家人の統制や軍事・警察を担う「侍所」を設置した初代将軍は誰？
- 問18 モンゴル帝国による日本侵攻の際に、火薬を用いた兵器が使用されたのはいつ頃？
- 問19 鎌倉時代、執権の北条泰時が制定した法律を何という？
- 問20 鎌倉幕府を倒し、1334年から天皇中心の政治を復活させようとした天皇は誰？
- 問21 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？
- 問22 モンゴル帝国が中央アジアを征服し、世界規模で勢力を広げたのは何世紀？

## 答え合わせ・解説

|     |              |                                                                                                                                                                         |
|-----|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え<br>金剛力士像  | 東大寺南大門に配置された金剛力士像は、運慶と快慶らの工房が分担して短期間で完成させました。筋肉の盛り上がりや血管の浮き出た表現、衣のひだの動きなど、極めて写実的で生命感あふれる特徴を持っています。                                                                      |
| 問2  | 答え<br>随筆     | 随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。                                                                                      |
| 問3  | 答え<br>金剛力士像  | 東大寺南大門に安置されている金剛力士像は、運慶や快慶らによって作られました。筋肉の隆起や力強い表情など、非常に写実的かつダイナミックな表現が特徴であり、当時の力強い武士の精神性が彫刻にも表れています。                                                                    |
| 問4  | 答え<br>鴨長明    | 鴨長明は、貴族社会から離れて隠遁生活を送った人物です。京都郊外の日野山に小さな草庵を結び、そこで体験した世の中の厳しい出来事や仏教的な無常観を書き残しました。これが文学作品として高い評価を受けている『方丈記』です。                                                             |
| 問5  | 答え<br>栄西     | 鎌倉時代は、激動の世の中で武士を中心に新しい仏教が求められていた時代です。宋に渡り修行した栄西は、帰国後に禅宗の一つである臨済宗を伝えました。彼はまた、宋から茶の種を持ち帰ったことでも知られ、日本における喫茶の習慣を広めるきっかけを作った人物としても有名です。その後、禅の教えは武士の気風と合致し、鎌倉を中心に広く浸透していきました。 |
| 問6  | 答え<br>分割相続   | 当時の武士社会では、家督を継ぐ長男だけでなく、他の兄弟にも領地を分ける分割相続が一般的でした。これにより、相続のたびに個々の武士が持つ土地が細分化され、一つの家が持つ経済力が低下していきました。                                                                       |
| 問7  | 答え<br>北条氏    | 承久の乱が起こると、執権・北条義時のもとで幕府軍は京都へ進撃しました。北条政子の演説で御家人を鼓舞し、勝利を収めたことで、全国的な支配体制が確固たるものになりました。                                                                                     |
| 問8  | 答え<br>十字軍    | 1095年、ローマ教皇ウルバヌス2世の呼びかけにより、聖地を奪還するための軍勢が組織されました。遠征は複数回にわたって行われ、盾に十字の印をつけたことから「十字軍」と呼ばれます。                                                                               |
| 問9  | 答え<br>方丈記    | 『方丈記』は、こうした激動の時代を生きた鴨長明による随筆です。作者自身が世俗を離れて山の中に住まい、人々の苦しみや災害の恐ろしさ、そしてこの世がいかに儚いものであるかを鋭い洞察で綴っています。「ゆく河の流れは絶えずして」という有名な冒頭文は、鎌倉時代の文学を象徴する無常観を端的に表しています。                     |
| 問10 | 答え<br>後鳥羽上皇  | 後鳥羽上皇は、北条義時追討の院宣を出し、倒幕を試みました。しかし、北条政子の演説により結束を強めた幕府軍の反撃にあい、上皇側は敗北しました。                                                                                                  |
| 問11 | 答え<br>鎌倉文化   | 鎌倉文化は、武士の気風や、新しく起こった仏教の影響を受けています。彫刻では写実的で力強い表現が、文学では『平家物語』のような軍記物語が人々に親しまれました。また、禅宗の影響を受けて、簡素で力強い美意識が確立されたのも大きな特徴です。                                                    |
| 問12 | 答え<br>鎌倉時代   | チンギス・ハンはモンゴル帝国を建国し、強力な騎馬軍団を率いて次々と周辺地域を征服しました。この動きは、後の鎌倉幕府がモンゴルの襲来（元寇）を受けるという歴史的な接点へとつながっていきます。                                                                          |
| 問13 | 答え<br>力強さ    | 「力強さ」とは、鎌倉文化を象徴するキーワードです。武士の生活や気風を反映し、華美な貴族文化とは対照的に、写実的で現実味のある表現が好まれました。                                                                                                |
| 問14 | 答え<br>平家物語   | 『平家物語』は、平氏の滅亡までの過程を力強く描き出した文学作品です。この物語は書物として読まれるだけでなく、琵琶法師と呼ばれる人々が全国を巡り、琵琶を奏でながら口頭で語り伝えることで広く庶民から武士まで浸透しました。その語りは「平曲」とも呼ばれ、独特の節回りで当時の人々の心を打ちました。                        |
| 問15 | 答え<br>北条泰時   | 北条泰時は、連署の北条時房と共に「御成敗式目」を制定しました。これは武士社会の実態に合わせた最初の法律で、全51条からなり、土地争いの解決などを重視していました。泰時は、自らの家系が権力を持つ中であっても、法に従って公平な判決を下すことを重視し、執権政治を安定させました。                                |
| 問16 | 答え<br>問注所    | 問注所は、鎌倉幕府の中央機関の一つで、主に御家人の訴訟や裁判、書類の管理を担当しました。侍所が軍事・警察を、政所が一般政務を担当したのに対し、問注所は法律に基づく冷静な判断を行う機関として、幕府の権威を高める役割を果たしました。                                                      |
| 問17 | 答え<br>源頼朝    | 1185年に鎌倉幕府の主要な機関として「侍所」を設置しました。侍所は御家人の統制や軍事・警察を担当する組織で、初代の長官（別当）には和田義盛が任命されました。これにより、全国の御家人が將軍の指揮下に入る体制が整いました。                                                          |
| 問18 | 答え<br>十三世紀後半 | 十三世紀後半の二度にわたる元寇において、元軍は日本軍とは異なる戦法をとりました。特に、当時の日本では馴染みのなかった火薬兵器を使用し、武士たちを大いに苦しめました。                                                                                      |
| 問19 | 答え<br>1232   | この法律は、それまでの習慣を基礎とし、武士社会の道理に基づいて裁判を行うための基準を明確にしたものです。これにより、幕府による全国的な裁判の公平性が保たれるようになりました。                                                                                 |
| 問20 | 答え<br>後醍醐天皇  | 後醍醐天皇は足利尊氏や新田義貞ら有力武士の協力を得て鎌倉幕府を滅ぼしました。その後、1334年に天皇による直接統治を目指す「建武の新政」を開始しました。                                                                                            |
| 問21 | 答え<br>栄西     | 栄西は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。彼は座禅によって悟りを開くことを説き、武士たちの間に広く支持されました。また、宋からお茶の種を持ち帰ったことでも有名です。                                                                           |
| 問22 | 答え<br>13世紀   | 1206年のモンゴル帝国建国から、13世紀を通じてモンゴル軍は東西に遠征を行いました。この時代は日本という鎌倉時代の中期にあたり、幕府にとっては東アジアの情勢が大きく変化した激動の時期でした。                                                                        |

- 問1 マルコ・ポーロが見聞をまとめて出版し、日本を「黄金の国ジパング」として紹介したことで知られる著書を何という？
- 問2 元軍の再襲来に備えて鎌倉幕府が博多湾の沿岸に築いた、石造りの防壁を何という？
- 問3 モンゴル帝国が建国されたのは、日本ではどの時代にあたる？
- 問4 源頼朝の死後、将軍を補佐して幕府の実権を握った北条氏の役職を何という？
- 問5 承久の乱の後、反乱側の貴族や武士の領地に任命された幕府の役職を何という？
- 問6 承久の乱を起こし、鎌倉幕府を倒そうと試みた上皇は誰？
- 問7 1232年に日本初の武家法である『御成敗式目』を制定した、鎌倉幕府の第3代執権は誰？
- 問8 1281年にモンゴル帝国が二度目に日本へ襲来した戦いを何という？
- 問9 鎌倉時代、元軍による侵攻の際に、従来の武士の戦法である一騎打ちを行うことで苦戦を強いられた、当時の武士階級の呼び名を何という？
- 問10 承久の乱の後に、京都で朝廷の監視や西国の統治を行う六波羅探題を設置した人物は誰？
- 問11 後鳥羽上皇が幕府の倒幕を企てたが、幕府側が勝利し、朝廷に対する幕府の優位が確立した出来事が起こったのは何年？
- 問12 琵琶法師によって語り継がれた、平氏一族の栄枯盛衰を描いた軍記物語を何という？
- 問13 鎌倉幕府が、年貢の徴収や土地の管理、治安維持のために各地に置いた役職を何という？
- 問14 鎌倉時代に領地を複数の子に分けて引き継ぐ慣習を何という？
- 問15 『方丈記』において、乱世の出来事を通じて描かれた仏教的な思想を何という？
- 問16 鎌倉幕府が土地管理や年貢徴収を行わせるために、各所に配置した役職を何という？
- 問17 『平家物語』を琵琶を弾きながら語り歩き、物語を全国に広めた人を何という？
- 問18 十三世紀後半、モンゴル帝国から日本へ侵攻してきた軍隊を何という？
- 問19 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？
- 問20 鎌倉時代後期に、困窮して幕府の支配に抵抗するようになったかつての幕府の味方は誰？
- 問21 法然が開いた浄土宗が拠点とし、教えを広めた場所はどこ？
- 問22 鎌倉時代初期に焼失したあと、源平の戦いの後に再建された奈良にある有名な寺院を何という？

## 答え合わせ・解説

|     |                    |                                                                                                                                       |
|-----|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え<br>世界の記述（東方見聞録） | 帰国後に獄中で語った内容が記録され、出版されたのが『世界の記述（東方見聞録）』です。この書物には、当時の中国の繁栄や日本の富について書かれており、ヨーロッパの人々にアジアへの関心を抱かせました。                                     |
| 問2  | 答え<br>防塁           | 幕府は北九州の御家人たちに命じ、博多湾の海岸沿いに石造りの長い防壁を築きました。これが「防塁」です。元軍の上陸を困難にさせる防御施設であり、当時の武士の軍事動員体制を示す重要な遺構です。                                         |
| 問3  | 答え<br>鎌倉時代         | チンギス・ハンはモンゴル帝国を建国し、強力な騎馬軍団を率いて次々と周辺地域を征服しました。この動きは、後の鎌倉幕府がモンゴルの襲来（元寇）を受けるという歴史的な接点へとつながっていきます。                                        |
| 問4  | 答え<br>執権           | 執権は、はじめは將軍の補佐役として置かれていましたが、北条時政が初代となって以降、北条氏が世襲するようになりました。執権政治のもとでは、將軍は形式的な存在となり、北条氏が実質的な幕府の最高指導者として全国を政治を統括しました。                     |
| 問5  | 答え<br>新地頭          | 幕府はこの没収した領地に「新地頭」を配置しました。これにより幕府は、それまで支配が届きにくかった西日本においても、武士を直接的に管理する体制を築きました。                                                         |
| 問6  | 答え<br>後鳥羽上皇        | 1221年、後鳥羽上皇は全国の武士に対して北条義時を討つよう院宣（命令）を出しました。しかし、幕府軍の迅速な対応により朝廷側は敗北し、上皇は隠岐へ流されました。                                                      |
| 問7  | 答え<br>北条泰時         | 北条泰時は、御家人の利益を守り、争いを解決するために「御成敗式目」を制定しました。これは武士社会の道理に基づいた最初の法律であり、裁判の公平性を担保する役割を担いました。                                                 |
| 問8  | 答え<br>弘安の役         | 1281年、元軍は再び大軍を率いて九州へ攻め寄せました。これが弘安の役です。幕府は事前に築いていた防塁や備えによって防戦し、元軍の上陸を阻みました。また、暴風雨により元軍の船団が壊滅的な被害を受けたことで、幕府軍の勝利が確定しました。                 |
| 問9  | 答え<br>御家人          | 彼らは平時の警備や戦時の戦闘を担う、幕府の軍事的基盤でした。元軍との戦いにおいては、少人数での一騎打ちを重んじるこれまでの戦い方とは異なり、集団で組織的に攻めてくる元軍に対して非常に苦戦を強いられました。                                |
| 問10 | 答え<br>北条泰時         | 北条泰時は、北条義時の長男として活躍し、乱の直後に京都に六波羅探題を設置して政治基盤を固めました。また、武士の習慣に基づく日本初の武家法典『御成敗式目』を制定し、公平な裁判の実現に努めました。                                      |
| 問11 | 答え<br>1221年        | 1221年、後鳥羽上皇が北条義時追討の院宣を出して挙兵しました。これに対し、幕府は北条政子の演説などで御家人を団結させ、迅速に京都へ兵を進めて鎮圧しました。これを承久の乱といいます。                                           |
| 問12 | 答え<br>平家物語         | 『平家物語』は、平清盛をはじめとする平氏一族の栄華と、源氏との戦いによる滅亡を描いた作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な一節にあるように、世の中の無常さを説く「無常観」が根底に流れています。                                    |
| 問13 | 答え<br>地頭           | 地頭は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。また、治安維持や裁判の補助を行う警察的な役割も担うようになり、次第に現地の武士として強い権力を持つようになりました。                                          |
| 問14 | 答え<br>分割相続         | 分割相続とは、武士の家督を継ぐ際に、所有する領地を子供たちで等しく分ける方法です。当初は家が維持できていましたが、相続を繰り返すたびに一人の持つ土地が小さくなり、生活が苦しくなる武士が増えました。これが御家人の困窮を招き、幕府の権威が低下する一因となりました。    |
| 問15 | 答え<br>無常観          | 無常観とは、この世のすべての存在は常に変化し、永遠に続くものはないという仏教の教えです。鴨長明は『方丈記』の中で、京都の大火や地震などの惨禍を描き出し、人間の力ではどうしようもない儚さを無常観として表現しました。                            |
| 問16 | 答え<br>地頭           | 地頭は、荘園や公領において土地の管理、犯罪者の取り締まり、そして年貢の徴収を行うために配置されました。これにより、幕府は全国の武士を統制する強力なネットワークを得ました。                                                 |
| 問17 | 答え<br>琵琶法師         | 琵琶法師は、琵琶の音色に合わせて、平氏の栄華と滅亡をドラマチックに語り伝えました。彼らが語る物語は、合戦の様子や英雄たちの活躍を生生きと描き出したため、武士だけでなく、一般の民衆の間でも熱狂的に受け入れられました。                           |
| 問18 | 答え<br>元軍           | 元軍は、モンゴル人を中心に、支配下の漢人や高麗人などを加えた巨大な連合軍でした。火薬を使った「てつほう」などの兵器を使い、集団で組織的に戦う戦法をとったため、個人の武勇を競う当時の武士たちを苦しめました。                                |
| 問19 | 答え<br>随筆           | 随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。                                                    |
| 問20 | 答え<br>御家人          | 経済的に追い詰められた御家人は、借金を重ねるなどして没落していきました。その結果、一部の御家人は荘園領主の土地を奪ったり、幕府の命令を無視して年貢の徴収を妨害したりする「悪党」となりました。この存在は、鎌倉幕府の支配体制が全国的に崩壊しつつあることを象徴しています。 |
| 問21 | 答え<br>吉水           | 吉水は法然の住居があった場所であり、ここを中心に念仏の教えが貴族や民衆にまで広く伝わっていきました。当時の仏教界は厳しい戒律や修行が主流でしたが、法然はここを拠点として、誰もが実践できる「専修念仏」を説き続けました。                          |
| 問22 | 答え<br>東大寺          | 鎌倉幕府の協力のもと、重源という僧が中心となり、東大寺の再建が進められました。全国から寄付を募り、当時の最高の仏師たちによって多くの仏像が新造されました。南大門の金剛力士像はその象徴として制作されたものです。                              |

- 問1 平氏の栄枯盛衰を描き、琵琶法師によって語り継がれた軍記物語を何という？
- 問2 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？
- 問3 『方丈記』において、乱世の出来事を通して描かれた仏教的な思想を何という？
- 問4 日蓮が仏教の真の教えが記されていると説いた経典の名前は何という？
- 問5 鎌倉時代、将軍が御家人に対し、本領を安堵したり新領地を与えたりすることを何という？
- 問6 鎌倉幕府において、御家人の統制や軍事・警察を担う「侍所」を設置した初代将軍は誰？
- 問7 東大寺南大門の金剛力士像などを制作した、鎌倉時代の有名な仏師は誰？
- 問8 13世紀にモンゴル高原を中心に勢力を拡大し、フビライ・ハンが建てた帝国を何という？
- 問9 鎌倉時代に御家人が負担した、戦いのための動員や役務を何という？
- 問10 1274年にモンゴル帝国が初めて日本を襲撃した戦いを何という？
- 問11 鴨長明が乱世における世の無常を記した、日本三大随筆の一つとされる作品を何という？
- 問12 浄土真宗で重要視された、自分の修行力ではなく、阿弥陀仏の力によって救われるという考え方を何という？
- 問13 鎌倉時代、税として年貢が徴収されていた土地の種類を何という？
- 問14 13世紀後半、モンゴル帝国による二度の襲来を受けた出来事を何という？
- 問15 1232年に日本初の武家法である『御成敗式目』を制定した、鎌倉幕府の第3代執権は誰？
- 問16 『平家物語』を琵琶を弾きながら語り歩き、物語を全国に広めた人を何という？
- 問17 鎌倉幕府において、将軍が御家人の何を守る（安堵する）ことを根拠とした主従関係を「御恩と奉公」という？
- 問18 1281年にモンゴル帝国が二度目に日本へ襲来した戦いを何という？
- 問19 鎌倉時代後期に、困窮して幕府の支配に抵抗するようになったかつての幕府の味方は誰？
- 問20 鎌倉時代に広まった仏教の新しい宗派の一つで、ひたすら座る修行を行うことを重視した宗派を何という？
- 問21 鎌倉幕府が、年貢の徴収や土地の管理、治安維持のために各地に置いた役職を何という？

## 答え合わせ・解説

|     |              |                                                                                                                                                     |
|-----|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え<br>平家物語   | 『平家物語』は、平氏一族の栄華から壇ノ浦での滅亡までを描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な書き出しで始まり、無常観あふれる物語として広く親しまれました。盲目の琵琶法師が琵琶を奏でながら語り伝える形式で広まったため、多くの人々に愛唱されました。                   |
| 問2  | 答え<br>貞永式目   | 制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「貞永式目」とも呼ばれます。特に、守護の権限を警察・裁判権に限定する「大犯三箇条」などが規定され、御家人の権利を守る内容が含まれていました。                                               |
| 問3  | 答え<br>無常観    | 無常観とは、この世のすべての存在は常に変化し、永遠に続くものはないという仏教の教えです。鴨長明は『方丈記』の中で、京都の大火や地震などの惨禍を描き出し、人間の力ではどうしようもない儚さを無常観として表現しました。                                          |
| 問4  | 答え<br>法華經    | 日蓮は、数ある經典の中で『法華經』こそが釈迦の教えの真髄であると主張しました。この經典を信じ、「南無妙法蓮華經」という題目（唱える言葉）を唱えることが、人々の救いにつながると説いたのです。                                                      |
| 問5  | 答え<br>御恩     | 御恩は、主従関係の基盤であり、将軍が家臣（御家人）に対して「本領安堵（もともとの領地を認める）」や「新恩給与（手柄に応じて新しい土地を与える）」を行うことです。これに応じて御家人は奉公を行うというセットの仕組みにより、幕府は全国の武士を統率していました。                     |
| 問6  | 答え<br>源頼朝    | 1185年に鎌倉幕府の主要な機関として「侍所」を設置しました。侍所は御家人の統制や軍事・警察を担当する組織で、初代の長官（別当）には和田義盛が任命されました。これにより、全国の御家人が将軍の指揮下に入る体制が整いました。                                      |
| 問7  | 答え<br>運慶     | 「運慶」は、奈良の東大寺南大門に安置されている巨大な「金剛力士像」を、快慶とともに制作した仏師です。筋肉の動きや表情までリアルに再現する写実的な作風は、当時の人々に衝撃を与えました。                                                         |
| 問8  | 答え<br>モンゴル帝国 | 五代皇帝フビライ・ハンは、都を現在の北京である大都に移し、中国全土を支配下に置くために国号を「元」と決めました。このモンゴル帝国は、東西の交通路を整備し、シルクロードを通じた交流を活性化させました。また、強大な軍事力を持って周囲の国々に服属を要求しました。                    |
| 問9  | 答え<br>軍役     | 軍役は、御家人が「奉公」として果たさなければならない主要な義務です。戦が起きた際に手勢を率いて駆けつけたり、京都や鎌倉の警備に当たったりすることが求められました。これは御恩に対する見返りであり、御家人の家格や領地の広さに応じて課されることが一般的でした。                     |
| 問10 | 答え<br>文永の役   | この戦いは文永の役と呼ばれ、元軍は対馬や壱岐を占領した後に博多湾に上陸しました。日本の武士は集団戦法を用いる元軍に苦戦しましたが、嵐の影響などで元軍が撤退したため、大きな戦禍は最小限に留まりました。                                                 |
| 問11 | 答え<br>方丈記    | 『方丈記』は、こうした激動の時代を生きた鴨長明による随筆です。作者自身が世俗を離れて山の中に住まい、人々の苦しみや災害の恐ろしさ、そしてこの世がいかに儚いものであるかを鋭い洞察で綴っています。「ゆく河の流れは絶えずして」という有名な冒頭文は、鎌倉時代の文学を象徴する無常観を端的に表しています。 |
| 問12 | 答え<br>他力本願   | 他力本願は、自分の力で修行（自力）に頼るのではなく、すべてを阿弥陀仏の力（他力）に任せて救いを求める考えです。親鸞はこの姿勢こそが真の信仰であると説き、出家せずただ念仏を唱えるだけで救われる道を提示しました。                                            |
| 問13 | 答え<br>荘園     | 荘園は、貴族や有力な寺社などが所有する土地で、そこから上がる収益が当時の支配階級の重要な経済源でした。鎌倉幕府が成立すると、幕府は各地の荘園にも「地頭」を配置し、年貢徴収や管理の権限を握りました。これにより、それまでの公領（朝廷直轄地）と並び、武士の支配対象となりました。            |
| 問14 | 答え<br>元寇     | 1274年の「文永の役」と、1281年の「弘安の役」の二度にわたり、元軍が日本に襲来しました。幕府は御家人を動員して防戦し、九州各地で激しい戦いが繰り広げられました。特に弘安の役では、日本側が築いた石築地などの防衛と暴風雨も重なり、元軍は退却しました。                      |
| 問15 | 答え<br>北条泰時   | 北条泰時は、御家人の利益を守り、争いを解決するために「御成敗式目」を制定しました。これは武士社会の道理に基づいた最初の法律であり、裁判の公平性を担保する役割を担いました。                                                               |
| 問16 | 答え<br>琵琶法師   | 琵琶法師は、琵琶の音色に合わせて、平氏の栄華と滅亡をドラマチックに語り伝えました。彼らが語る物語は、合戦の様子や英雄たちの活躍を生生きと描き出したため、武士だけでなく、一般の民衆の間でも熱狂的に受け入れられました。                                         |
| 問17 | 答え<br>土地     | 将軍は御家人の領地（本領）を「安堵（保証）」し、時には新しい領地（新恩給与）を与える「御恩」を与えました。一方、御家人は戦いの際に軍役に従事したり、幕府の警備をするなどの「奉公」を行いました。                                                    |
| 問18 | 答え<br>弘安の役   | 1281年、元軍は再び大軍を率いて九州へ攻め寄せました。これが弘安の役です。幕府は事前に築いていた防壁や備えによって防戦し、元軍の上陸を阻みました。また、暴風雨により元軍の船団が壊滅的な被害を受けたことで、幕府軍の勝利が確定しました。                               |
| 問19 | 答え<br>御家人    | 経済的に追い詰められた御家人は、借金を重ねるなどして没落していきました。その結果、一部の御家人は荘園領主の土地を奪ったり、幕府の命令を無視して年貢の徴収を妨害したりする「悪党」となりました。この存在は、鎌倉幕府の支配体制が全国的に崩壊しつつあることを象徴しています。               |
| 問20 | 答え<br>曹洞宗    | 曹洞宗は、宋から帰国した道元が日本に伝えた宗派です。特定の經典や修行にとらわれず、ただひたすらに座禅を組む「只管打坐（しかんたざ）」を修行の中心に置きました。この教えは、地方の武士や農民にも広く浸透していきました。                                         |
| 問21 | 答え<br>地頭     | 地頭は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。また、治安維持や裁判の補助を行う警察的な役割も担うようになり、次第に現地の武士として強い権力を持つようになりました。                                                        |